

# (ア)抗レトロウイルス治療(ART)センターの 建設と整備

M9 ムウェンベシ地域



ムウェンベシクリニックARTセンター  
(第2期に新設)



ナンゴングウェクリニックARTセンター  
(第1期に新設)

チランガ地域



マウントマクルクリニックARTセンター  
(第1期に新設)

カフエタウン

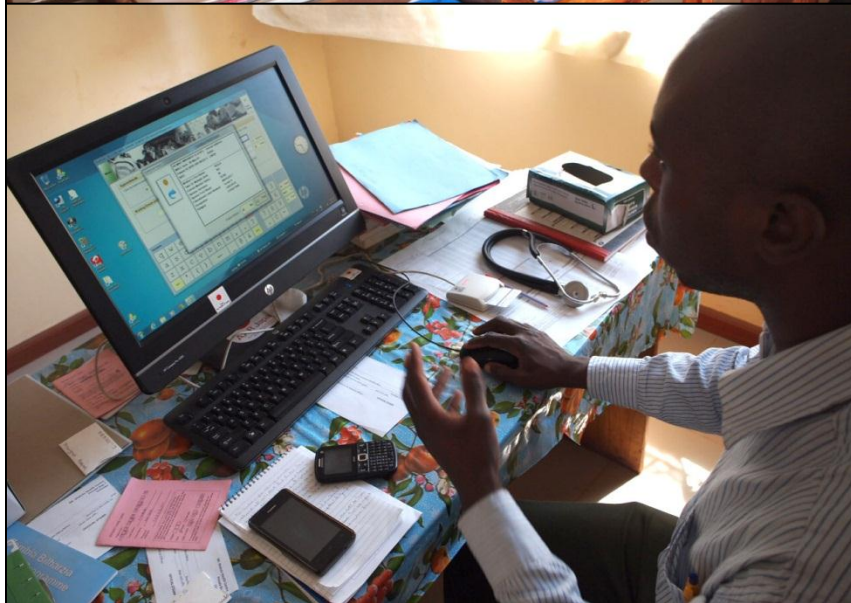
カフエ  
Kafue



# (ア) 抗レトロウイルス治療(ART)センターの 建設と整備



ARTセンターのデータルームに設置したカルテ用書架の使用状況。服薬支援ボランティアが毎日来院患者のカルテの出し入れを行う。



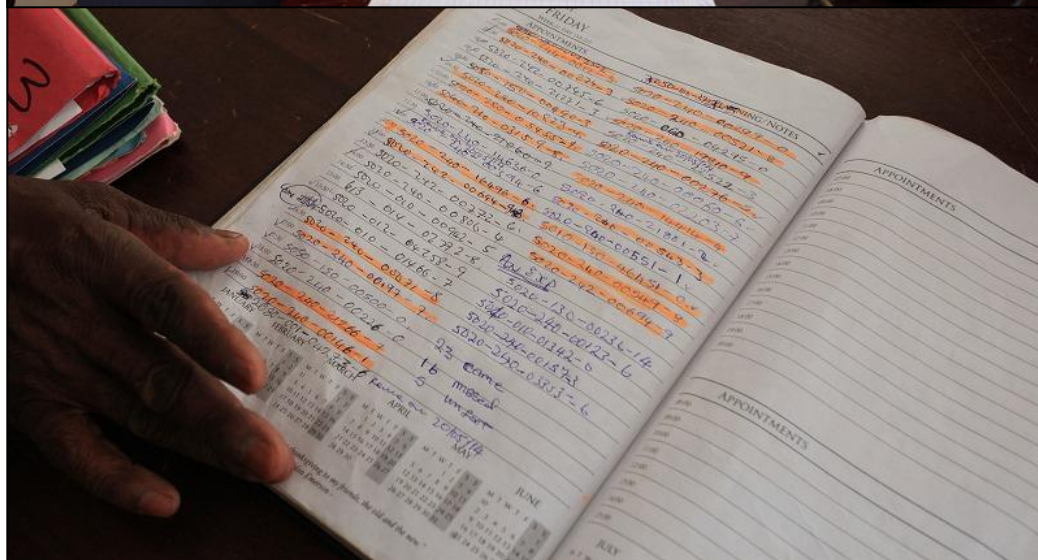
パソコンを導入し、SmartCareによる患者データベースの作成を開始した。



# (イ)ART患者情報管理システムの改善と確立



来院が途絶えている患者のリストを作成し、これをもとに、服薬支援ボランティアが家庭訪問を開始した。



日記帳を用い、該当日に予約した患者の来院状況を確認する「ダイアリーシステム」を導入した。これにより、予約日に来院していない患者を容易に把握できるようになった。

## (イ)ART患者情報管理システムの改善と確立



患者の通院・処方履歴を速やかに照会できるSmartCare(患者情報管理ソフトウェア)の導入し、患者の電子登録作業を進めた。



## (ウ)服薬支援ボランティアの育成と自立支援



マウントマクルで11名、ナンゴングウェで12名、ムウエンベシで25名の計48名のボランティアが活動中。年間活動計画策定、HIV/エイズと服薬支援、カウンセリング、自転車メンテナンス、経験共有などの各種ワークショップを通じて活動に必要な能力強化を行った。

写真は3箇所のクリニックのボランティアがマウントマクル・クリニックに集まり、経験共有を行っている様子。



服薬支援ボランティアが通院が途絶えているART患者のリストを作成し、供与した自転車を利用して患者家庭訪問を開始した。

2014年11月末時点の累計で、マウントマクルで211件、ナンゴングウェで758件、ムウエンベシで698件の合計1,667件の家庭訪問を実施した。家庭訪問活動の他、カルテ整理業務や定例会開催が定着した。

## (エ)ART患者とその親近者に対する啓発活動実施



ART患者とその親近者を対象にHIV/エイズと服薬治療についての勉強会を定期的に実施した。写真はチランガ地域で開催したワークショップにて、治療中の栄養摂取の必要性について参加者が発表している様子。2014年11月末時点で、ワークショップを40回以上開催し、1,570名が参加した。



# (オ)学校エイズ対策クラブに対する啓発活動実施



支援対象校を選定し、各校のエイズ対策クラブのメンバーを対象に各種ワークショップを開催した。写真はHIV/エイズ基礎知識ワークショップにて、ムパンバ小学校のクラブメンバーがHIV感染予防法についてのグループ発表準備を行っている様子。



12月1日の世界エイズデーには各校で啓発イベントを開催した。写真はマーノ小学校にてクラブメンバーが全校生徒に向け、HIV/エイズをテーマにメッセージを披露している様子。

# (ア)ARTのための環境整備と管理体制の確立



ART患者の免疫状態を迅速に確認できるよう、血液中CD4陽性Tリンパ球測定器(CD4測定器)をクリニックに提供する。写真はカフエ地区にあるカフエ・エステート・クリニックに設置されているCD4測定器

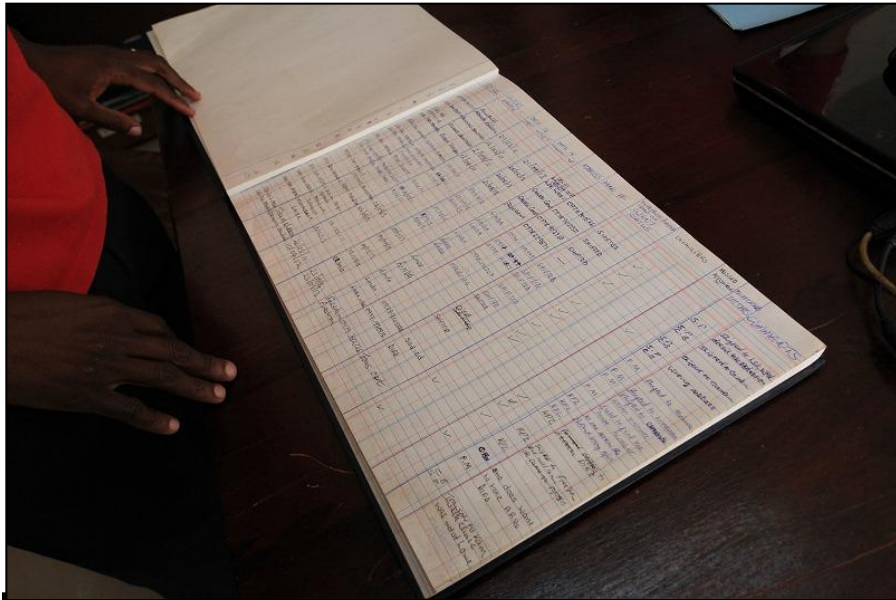


自力での通院が困難な患者のための自転車用救急搬送カートを提供する。写真は2011年のN連チパパ第3期事業において、チパパクリニックに供与した救急搬送カート。

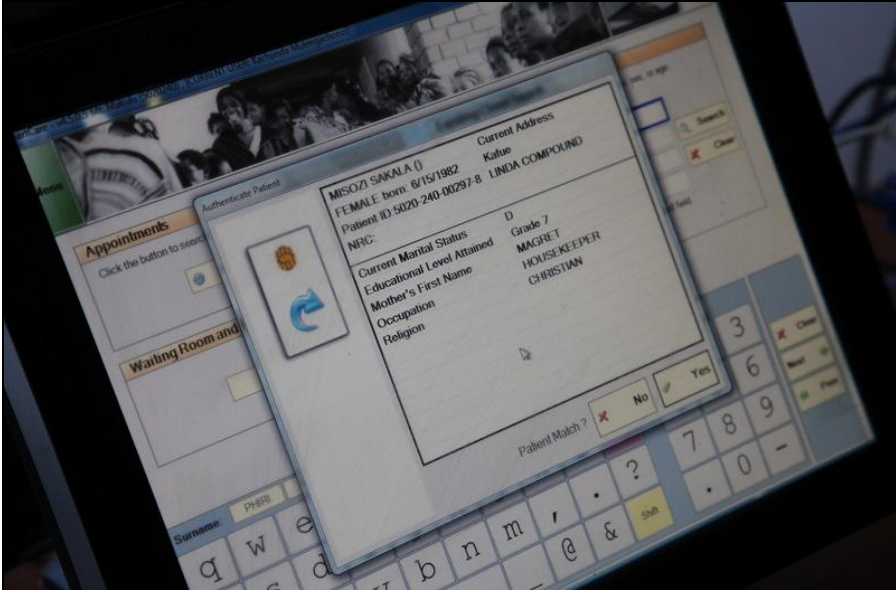
その他、クリニック待合室に啓発番組放映のためのTVとDVDプレイヤー、カウンセリング室にコンドームの装着実演用模型を設置する。



# (イ)ART患者情報管理システムの確立



患者台帳の管理を徹底し、来院していない患者を容易に抽出できる仕組みを定着させる。



SmartCareの活用の定着を図る。

## (ウ)服薬支援ボランティアの育成と自立支援(継続)



プロポーザルライティングを含めた資金調達能力を養うための研修や、病状が深刻な患者を搬送するための介助研修を実施する。



## (エ)ART患者とその親近者に対する啓発活動実施 (継続)



クリニックの通院患者だけでなく、通院が途絶えている患者や、地域における潜在的なART患者に対してもHIV/エイズについての正しい情報や、服薬遵守の大切さを伝える活動を行う。

# (オ)学校エイズ対策クラブに対する啓発活動実施 (継続)



学校が主体となり、HIV感染予防のための啓発活動を順次実施する。写真は第2期においてムウェンベシ中高等学校生徒が孤児院を訪問し、HIV感染予防の啓発を行っている様子。